

第2回新地域ビジョン検討委員会における主な意見等

1 重点テーマ等に係るキーワード、ポイント

キーワード、ポイント	内容
多様化	・それぞれの生活の多様化に伴い、多様化を地域で受け入れる土壌も必要になる。
人、地域	・「人づくり」と「地域づくり」がいずれのテーマにも関連 ・「人づくり」「地域づくり」にはリーダーの育成が大事
域内交流	・中播磨の人が中播磨のことを体験して楽しむ・学ぶことが、収益や郷土愛、産業に担い手づくり等にもつながる。
生活者としての外国人	・2050年には労働者の枠を超えて生活者になっているのでは。 ・外国人とのコミュニケーションのあり方も大きく変わる。
交通、物流	・交通は、福祉や地域間交流等すべての分野で大きなポイント ・中播磨産の製品等を市場に届ける運送システム（他地域との競争）
人の動きの変化（移動の広域化等）	・運転支援機能等により移動が広域化し、通勤圏が広がる。 ・先端技術により働き方や生き方、生活圏、通勤圏が変わる。
ものづくり産業（ニッチ産業）	・特定の分野に特化したニッチ産業を引き立てる視点も大事 ・大学卒業後に中播磨地域に帰ってくる仕組みにつながる。
生産性の向上	・人口減少下でワークライフバランスを実現するためには、先端技術等の活用による労働生産性の向上が必要
趣味の農業	・休日に楽しむ「趣味の農業」は伸びしろがある。 ・高齢者の生きがいづくりや健康増進につながる。
兼業農家	・兼業農家の今後が不安（耕作できず、農地が荒れる） ・次の代（後継者）がいないことが大きな課題
人材の育成・確保	・機械で代替のきかない介護・福祉人材の育成・確保は重要 ・専門職の育成には時間を要するため、長期的な対応が必要
教育	・子どもたちを地域と一緒にどのように育てていくかが大事 ・学校をコミュニティの核となる施設として育て、守る。
体験	・実際に体験することで子どもは成長する。 ・豊かな体験は心に残る（リアルとデジタルの併用も重要）
地域コミュニティ、ご近所力	・おせっかいな人を中心とした地域コミュニティの形成 ・大きな中播磨を支えるため、小さな地域の力を高める。
子育て	・女性が働きながら子育てできる環境整備や子育て世帯の経済的負担の軽減など、子育て支援の視点も大事
ふるさと意識の醸成	・学校や地域での教育を通して、ふるさと意識を醸成 ・地域に誇りを持つことで、県外に出た若者が戻ってくる。

2 見せ方の工夫について

- ・新ビジョンは、県民に伝わるよう、作った後の展開方法を見据えて策定すべき
- ・二部構成にするなど、県民に手に取って読んでもらうための工夫が必要